

⑨ 選択項目・その他の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
該当なし			

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6	・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差(10～13回目) ・相関係数、相関関係と因果関係(10～13回目)
	1-7	・アルゴリズムの表現(フローチャート、アクティビティ図)(10～13回目)
	2-2	・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)(2回目) ・構造化データ、非構造化データ(2回目)
	2-7	・文字型、整数型、浮動小数点型(10～13回目) ・変数、代入、四則演算、論理演算(10～13回目) ・配列、関数、引数、戻り値(10～13回目)
(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1	・データ駆動型社会、Society 5.0(2回目) ・データサイエンス活用事例(仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替など)(2回目)
	1-2	・データ分析の進め方、仮説検証サイクル(10～13回目) ・分析目的の設定(10～13回目) ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスタリングなど)(10～13回目) ・様々なデータ可視化手法(比較、構成、分布、変化など)(10～13回目) ・データの収集、加工、分割/統合(10～13回目)
	2-1	・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ(3回目) ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス(3回目) ・ビッグデータ活用事例(3回目) ・人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータ(3回目)
	3-1	・AIの歴史、推論、探索、トイプロBLEM、エキスパートシステム(3回目) ・汎用AI/特化型AI(強いAI/弱いAI)(3回目) ・フレーム問題、シンボルグラウンディング問題(3回目) ・人間の知的活動とAI技術(学習、認識、予測・判断、知識・言語、身体・運動)(3回目) ・AI技術の活用領域の広がり(教育、芸術、流通、製造、金融、インフラ、公共、ヘルスケアなど)(3回目)
	3-2	・AI倫理、AIの社会的受容性・AIと知的財産権(5回目) ・プライバシー保護、個人情報の取り扱い(5回目) ・AIに関する原則/ガイドライン、規制(5回目) ・AIの公平性、AIの信頼性、AIの説明可能性、AIの安全性(5回目)
	3-3	・実世界で進む機械学習の応用と発展(需要予測、異常検知、商品推薦など)(2回目) ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習(3回目)
	3-4	・実世界で進む深層学習の応用と革新(画像認識、自然言語処理、音声生成など)(6～9回目) ・ニューラルネットワークの原理(3回目) ・ディープニューラルネットワーク(DNN)(3回目) ・学習用データと学習済みモデル(4回目) ・転移学習(4回目) ・深層学習と線形代数/微分積分との関係性(3回目)
	3-5	・実世界で進む生成AIの応用と革新(対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など)(6～9回目) ・基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデル(3回目) ・生成AIの留意事項(5回目) ・マルチモーダル(言語、画像、音声など)(3回目) ・プロンプトエンジニアリング(5回目) ・ファインチューニング(4回目) ・Transformer、注意機構、自己教師あり学習(3回目)
	3-10	・AIの学習と推論、評価、再学習(4回目) ・AIシステムの開発、テスト、運用(4回目) ・AIシステムの品質、信頼性(4回目) ・AIの計算デバイス(GPU、FPGAなど)(3回目)

(3)本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用企画・実施・評価」から構成される。	I	・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差(10～13回目) ・相関係数、相関関係と因果関係(10～13回目)
	II	・実世界で進む深層学習の応用と革新(画像認識、自然言語処理、音声生成など)(6～9回目) ・データ分析の進め方、仮説検証サイクル(10～13回目) ・分析目的の設定(10～13回目) ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスタリングなど)(10～13回目) ・様々なデータ可視化手法(比較、構成、分布、変化など)(10～13回目) ・データの収集、加工、分割/統合(10～13回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

自らの専門分野に数理・データサイエンス・AIを応用するための大局的な視点を獲得する。

③履修者・修了者の実績

[illegible]

大学等名 昭和音楽大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

- ① 全学の教員数 (常勤) 64 人 (非常勤) 626 人
- ② プログラムの授業を教えている教員数 2 人
- ③ プログラムの運営責任者
(責任者名) 菊池 温紀 (役職名) 教授
- ④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)
教育課程委員会
(責任者名) 石田 麻子 (役職名) 教育課程委員会委員長

- ⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称
昭和音楽大学・昭和音楽大学短期大学部教育課程委員会規程

- ⑥ 体制の目的
昭和音楽大学及び昭和音楽大学短期大学部の教育課程について各々の教育目的、社会的ニーズ、大学・短大相互の接続等を踏まえた教育課程の編成に関する全学的な方針の策定・検証・評価等を実施することを目的としている。

- ⑦ 具体的な構成員
教育課程委員会
委員長 石田麻子(学長補佐/教授)
副委員長 酒巻和子(研究科長/教授)
副委員長 有田栄(教授)
副委員長 由雄正恒(准教授)
委員 栃木真理子(学生支援センター部長)
委員 横澤田朋美(教職課程支援室長)
委員 松村亮(授業支援室長)
委員 藤田恵理(授業支援室係長)

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	1%	令和7年度予定	2%	令和8年度予定	4%
令和9年度予定	4%	令和10年度予定	4%	収容定員(名)	1,195
具体的な計画					
2024年度は、初年度という事もあり1クラス展開(後期のみ)で開講したが、2025年度の履修状況によって、2026年度は春学期・秋学期に2クラス展開の実施を検討する。併せて、今後のカリキュラム改定において、本教育プログラム該当科目のカリキュラム内での位置づけを、より重要度の高い科目としていく。					

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等
全学部・学科で本教育プログラム該当科目が履修可能なカリキュラムとしている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

シラバスに授業内容の詳細を記載、履修要綱に本プログラム対象科目であることや履修モデルの履修推奨科目として記載、大学ポータルサイトにて別途本プログラムの周知を行っている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

専任教員によるクラス担任制度により、学生の履修や修学についての相談を受けている。また、事務窓口にて、事務職員による履修などのサポートを行っている。さらに、本教育プログラム該当科目で使用しているメディアルームを、課題などが取り組めるよう授業外の時間に解放したり、より多くの学生がより高度な知識を学べるよう設備の増強の検討を進めている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本学は Microsoft 365包括ライセンス契約を締結しており、全学生及び教職員が、Microsoft社製の「Microsoft Teams」というグループウェアを使用することができる。これを利用し、Teams上に本教育プログラム該当科目のチーム(グループ)を作成し、講義や演習課題に関する情報共有を実施、担当教員および履修者がチームメンバーとして交流が取れる環境を構築している。また、学修さぽーと(オフィスアワー)において、履修者が授業担当教員に授業時間以外にも授業に関する質問をすることができ、教員から回答を得る(指導を受ける)ことができる仕組みを運用している。

大学等名 昭和音楽大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

内部質保証委員会

（責任者名）角南 篤

（役職名）学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	このプログラムの科目「情報機器演習（応用）Ⅱ」＜応用基礎レベル＞は、令和6（2024）年度は後期のみ開講し、履修者が7名であり、6名の単位を認定、修了率は85.7％である。 内容を十分に修得した者を合格させる方針であったため、修了者の質の担保はされている。なお、今後のカリキュラム改定において、本教育プログラム該当科目のカリキュラム内での位置付けをより重要度の高い科目となるよう、カリキュラムを扱う教育課程委員会に要請し検討を進めていく。
学修成果	全15回の内3分の2（10回）を演習に充て、対面形式の授業を実施した。教員はMicrosoft Teams上の本教育プログラム該当科目のチーム（グループ）に授業資料と演習課題を置き、学生が授業中だけでなく、授業後にいつでも過去の授業内容を確認できるようにした。演習では、音楽分野への適用を主にMicrosoft Excelを分析ツールとして利用し、講義の内容を確認するようにした。演習課題で履修者の理解度を把握しつつ、次回の授業に活かした。各回の課題提出（60％）と成果発表（20％）および主体的学修度（20％）の結果を総合し評価を行った。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本プログラムを構成する各授業の受講学生に対し、「学生による授業アンケート」（以下、授業アンケート）を実施している。各授業の担当者が授業アンケート結果を通じて学生の理解度を確認し、本学のアセスメントプランに示す点検改善サイクルに基づいて、授業改善へつなげている。 また、プログラムの進展に伴い、学生調査として全学で行っている、ディプロマ・ポリシーの達成度を問う「在学生調査」および「卒業時調査」の結果も活用し、授業の改善を行っていく。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	他学生への推奨度については調査を行っていないが、主要な科目である「情報機器演習（応用）Ⅱ」＜応用基礎レベル＞の授業アンケートに関し「総合的にみて、この授業を受講してよかった」という項目には、「そう思う」「少し思う」をあわせて回答者の100％が肯定的に答えている。その結果から推察するに、授業アンケートにおける授業への満足度は高く、本プログラムは学生から一定水準の好意的評価を受けたと考えている。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	令和6（2024）年度後期からの本プログラム開始となった為、履修者は限定的であったが、令和7（2025）年度履修状況によって、2026年度は春学期・秋学期に2クラス展開の実施を検討する。更に今後のカリキュラム改定において、本教育プログラム該当科目のカリキュラム内での位置づけを、より重要度の高い科目とするカリキュラム改編を検討し、履修者数および履修率向上に努める。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	令和6(2024)年度後期から本プログラムを開始したところであり、プログラム修了者が地域のそれぞれの組織(企業、自治体、団体等)で数理・データサイエンス・AIを活用することが期待され、今後は学生が就職した組織の意見も聞きながら、本プログラムの改善を検討する。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学では毎年、本学卒業生の就職先として想定される企業および「連携・協力に関する包括協定」締結済の企業へ、3つのポリシーならびに学修成果に係る意見交換会を開催している。令和6(2024)年度は、本プログラムについてご意見を伺った所1社より意見を頂いた(以下は要約)。 「本プログラムのカリキュラムは、令和9(2027)年度開設予定の貴学芸術工学部へ続いていく教科ではないかと思われた。これらのカリキュラムが音大で学ぶ事できる点は、これからの学生の職業選択に大きな幅が生まれるのではないかと思われ、期待が持てる。」
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本科目では、数理・データサイエンス・AI教育(リテラシーレベル)を補完・発展的に学び、データから意味を抽出し現場に活かす力、AIを活用して課題を解決する基礎力を修得する事を教育到達目標としている。履修者に対する授業アンケート結果に関し、「そう思う」「少し思う」の回答率が「自分はこの授業の教育到達目標を達成できた」「自分はこの授業に興味や関心を持って出席している」がともに100%であり、本プログラム受講を通じた「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」への理解は概ね達成されている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	令和6(2024)年度は、全15回の内3分の2(10回)が演習、課題提出をベースとして対面にて講義を展開した。授業アンケートの学生理解度ならびに満足度は総じて高かったが、回答率は28.5%であり、学生からの声を公正に聴き教員の資質・能力向上という本来のアンケートの実施目的が達成というには難しい状況である。回答率向上の検討が必要である。なお令和6(2024)年度は、「数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム」に連携校とし加入、更なる情報収集に努めている。次年度以降も様々な方面より履修者の主観的評価としての理解度、内容、教授方法の適切性を確認し、より「わかりやすい」授業を構築する事を目指していく。

授業名	データサイエンス・AI入門Ⅱ 応用基礎レベル（大・短）		
開講学期	2025年度秋学期	開講区分	週間授業
単位	2単位	授業形態	演習
担当教員	菊池 温紀、由雄 正恒		
曜日・時限	火曜3限	教室	B013（メディアルーム2）
実務経験のある教員 による授業科目		科目ナンバリング	LART130
科目分類		配当学年	1年
授業で使用する言語	日本語		

アクティブラーニング科目				
実技・実習	演習	ディスカッション・ディベート	グループワーク	フィールドワーク
	○			
プレゼンテーション	成果発表	ロールプレイング	反転授業	PBL（問題解決学習）
○	○			

成績評価		
種別	評価割合	備考
課題提出	40%	
成果発表	40%	
主体的学修度	20%	

以上の方法により総合的に評価を行う。

ディプロマポリシーとの関係性(R7年度抜粋)※R6以前は「履修要綱」関連頁を参照		
専門技能・知識	文化・教養	多様性理解
○		
自己表現力	コミュニケーション能力	実践力
◎		○

求められる成績水準（GPA）の目安
教育到達目標と概要
<p>◆教育到達目標</p> <p>数理・データサイエンス・AI教育（リテラシーレベル）の教育を補完的・発展的に学び、データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力、AIを活用し課題解決につなげる基礎能力を修得することを本講義の到達目標とします。</p> <p>◆概要</p> <p>同カリキュラムのリテラシーレベルを修得していることを前提に、実社会におけるデータを想定した演習を通じて、一連のデータ活用プロセスを体験します。また、基礎的な数理的素養、AIについて歴史から現在の応用分野、要素技術の基礎について学び、音楽分野への適用を演習を通じて体験します。これにより、関連する専門分野で数理・データサイエンス・AIを応用するためのスキルを獲得することを目指します。</p>
ICTの活用
データの集計や分析を実際にコンピュータを使って体験することでデータ・AI利活用の技術を身につけます。また、必要に応じて個人所有PC、配付タブレットや個人所有のスマートフォン等も活用します。
学修成果
自らの専門分野に数理・データサイエンス・AIを応用するための大局的な視点を獲得し、専門分野の技能やそれを実践する力、およびコミュニケーション能力を発揮するためのツールとして活用できるようになります。

授業展開と内容

第1回	(担当：菊池) [ガイダンス] ・授業で使用するIT環境、課題の提出方法等に関する説明 ・演習で使用するIT環境、アプリケーションの準備
第2回	(担当：菊池) [講義] ・データ駆動型社会とデータサイエンス ・ビッグデータとデータエンジニアリング ・AIの歴史と応用分野 ・AIと社会
第3回	(担当：菊池) [講義] ・AI技術の基礎と展望 ・深層学習の基礎と展望 ・生成AIの基礎と展望
第4回	(担当：菊池) [講義] AIの構築と運用 [演習] データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)
第5回	(担当：由雄) [演習] 音楽生成AI① ・音楽生成AIソフトウェアを使用し、生成AIに音楽を学習させ、生成する一連の流れを学びます。1回目ではソフトウェアの基本的な使い方を学びます。
第6回	(担当：由雄) [演習] 音楽生成AI② (つづき) 音楽生成AIソフトウェアを用いた楽曲の生成技法を学びます。
第7回	(担当：由雄) [演習] 音楽生成AI③ (つづき) 音楽生成AIソフトウェアを用いた楽曲の生成技法を学びます。
第8回	(担当：由雄) [演習] 音楽生成AI④ (つづき) 音楽生成AIソフトウェアを用いた楽曲の生成を行い、発表準備を実施します。
第9回	(担当：由雄) [演習・プレゼンテーション] 音楽生成AI⑤ ・演習で生成した楽曲を発表していただきます。
第10回	(担当：菊池) [講義] データ・AIを扱う上での留意事項 [演習] データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値
第11回	(担当：菊池) [講義] サイバーセキュリティ [演習] データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)
第12回	(担当：菊池) [演習] データアナリティクス① ・音楽の属性データを活用し、データの収集、分析、加工といったデータ分析の一連の流れを学びます。1回目は、データの分析技法を確認します。
第13回	(担当：菊池) [演習] データアナリティクス③ (つづき) 分析対象データの加工、分析を実施し、分析結果のまとめと発表準備を実施します。
第14回	(担当：菊池) [演習・プレゼンテーション] データアナリティクス④ ・データの分析結果を発表していただきます。

履修上の注意
教室のPC、各自保有するPC、タブレットやスマートフォンを併用して授業を進めます。授業で出された課題は必ず提出するようにしてください。
授業外学修の内容と時間

授業時間に出来たことでも、時間が経つと忘れてしまうことはよくあります。授業で習った考え方や技法を積極的に応用し、活用するようにしてください。事前の予習として、操作練習、演習で使用する機材やソフトウェアの準備など（授業内で適宜指示）、復習として、課題の続きや授業後の振り返りをお願いします。

予習時間	30分	復習時間	100分
------	-----	------	------

課題に対するフィードバックの方法

Teamsの「課題」機能を使用し、提出課題に対するコメントと評価によりフィードバックを行います。また、理解が進んでいないと思われる点については授業内でも適宜フィードバックします。

教科書・参考書

（教科書）
事前に指定する教科書は特にありません。参考文献等は適宜、授業内で説明します。
（参考書）
応用基礎としてのデータサイエンス，講談社サイエンティフィク ISBN978-4-06-530789-2

昭和音楽大学学則

第1章 総 則

(目 的)

第1条 昭和音楽大学（以下「本学」という）は、教育基本法及び学校教育法にしたがい、広く知識を授けるとともに、音楽を中心としたさまざまな領域に関する技能、理論及び応用を深く教授研究し、もって広い視野と高い識見を持つ人材育成を行い、文化の向上と社会の福祉に寄与することを目的とする。

(自己点検・評価)

第2条 本学は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

- 2 本学は、前項の点検及び評価の結果について、政令で定める期間毎に文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。
- 3 点検及び評価に関し必要な事項は、別に定める。

(教育研究上の目的の公表)

第3条 本学は、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学科ごとに定め公表する。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第4条 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための委員会を設け、研修等を実施する。

- 2 前項の委員会については別に定める。

第2章 学部、学科、収容定員及び修業年限

(学部及び学科)

第5条 本学に次の学部及び学科を置く。

音楽学部 音楽芸術表現学科 音楽芸術運営学科

(大学院)

第6条 本学に大学院を置く。

- 2 大学院に関する規則は別に定める。

(収容定員)

第7条 各学科学生の入学定員及び収容定員は次の通りとする。

第4章 教育課程、履修の方法、学修の評価、課程修了の認定及び卒業
(開設授業科目及びその単位数)

第12条 本学において開設する教養科目、外国語科目及び専門科目に関する単位数は別表1のとおりとする。

- 2 教育課程上主要と認める授業科目（以下「主要授業科目」という。）については原則として基幹教員（教育課程の編成その他の学部の運営について責任を担う教員（助手を除く。）であって、当該学部の教育課程に係る主要授業科目を担当するもの（専ら本学の教育研究に従事するものに限る。）又は一年につき8単位以上の当該学部の教育課程に係る授業科目を担当するものをいう。以下同じ。）に、主要授業科目以外の授業科目についてはなるべく基幹教員が担当するものとする。

(履修の方法)

第13条 本学において開設する授業科目は、これを必修、選択必修科目及び選択科目とし、4カ年に分けて履修させるものとする。

(履修科目の登録)

第14条 学生は毎学年度、所定の期日に当該年度において履修する授業科目を登録しなければならない。

- 2 学生は、前項により登録した授業科目以外の授業科目を履修し、また単位を修得することができない。

(単位の認定)

第15条 各授業科目を履修し、試験、その他の大学が定める適切な方法により学修の成果を評価し、合格したものには、所定の単位を与える。ただし、授業料及び所定の学費が未納の場合には、単位の認定は行わない。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第16条 本学が教育上有益と認めるときは、別に定める規定により、学生が他の大学・短期大学及びその他の教育施設等における学修を、次条に定める既修得単位と併せて、60単位を超えない範囲で本学において修得したものとして認定することができる。

(入学前の既修得単位等の認定)

第17条 本学は、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（第59条の規定による科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものと同みなすことができる。

3. 教育課程については、第12条の規定にかかわらず、当該入学年度の学則による。

附則1. この学則は、2024（令和6）年4月1日から施行する。

2. 入学者の授業料については、当該入学年度の学則による。
3. 教育課程については、第12条の規定にかかわらず、当該入学年度の学則による。
4. 収容定員については、第7条の規定にかかわらず、令和6年度から令和8年度までは次のとおりとする。

学科名	令和6年度	令和7年度	令和8年度
音楽芸術表現学科	785	800	815
音楽芸術運営学科	410	410	410
計	1,195	1,210	1,225

附則1. この学則は、2025（令和7）年4月1日から施行する。

2. 入学者の授業料については、当該入学年度の学則による。
3. 教育課程については、第12条の規定にかかわらず、当該入学年度の学則による。
4. 収容定員については、第7条の規定にかかわらず、令和7年度から令和9年度までは次のとおりとする。

学科名	令和7年度	令和8年度	令和9年度
音楽芸術表現学科	800	815	830
音楽芸術運営学科	410	410	410
計	1,210	1,225	1,240

(別表1)

(1) 教養科目、外国語科目

科目 の 区 分	授 業 科 目	単位数		
		必修	選択 必修	選択
教 養 科 目	基礎ゼミ	2		
	哲学			2
	文学			2
	西洋文化史Ⅰ			2
	西洋文化史Ⅱ			2
	日本文化史Ⅰ			2
	日本文化史Ⅱ			2
	美術史Ⅰ			2
	美術史Ⅱ			2
	心理学			2
	心の健康			2
	教育心理学			2
	日本国憲法			2
	経済学			2
	生活と経済		2	
	生涯学習概論			2
	ボランティア論			2
	演奏とからだⅠ			2
	演奏とからだⅡ			2
	音響学			2
	ICTと音楽芸術		1	
	情報機器演習（基礎）		2	
	情報機器演習（応用）Ⅰ		2	
	情報機器演習（応用）Ⅱ		2	
	データサイエンス・AI入門Ⅰ			2
	データサイエンス・AI入門Ⅱ			2
	博物館概論			2
	図書館概論			2
	キャリアデザイン			1
	芸術鑑賞①			1
	芸術鑑賞②			1
	ミュージック・コーディネート演習①			1
	ミュージック・コーディネート演習②			1
	ミュージック・コーディネート演習③			1
	ミュージック・コーディネート演習④			1
	ミュージック・コーディネート演習⑤			1
	体育理論			2
	体育実技Ⅰ			1
	体育実技Ⅱ			1
	クリエイティブスタディーズ			1
	日本語文法とコミュニケーションⅠ			1
	日本語文法とコミュニケーションⅡ			1
	日本語文法とコミュニケーションⅢ			1
	日本語と日本社会Ⅰ			1
	日本語と日本社会Ⅱ			1



対象： 大学 音楽学部
短期大学部 音楽科

数理・データサイエンス・ AI教育プログラム

2024年度後期より、大学音楽学部・短期大学部の
在学生を対象とした「数理・データサイエンス・AI
教育プログラム」を開始しました。

このプログラムは、文部科学省が提唱するプログラ
ムで、デジタル社会に必要な数理・データサイエン
ス・AI基礎知識とスキルを学んでいきます。

皆さんの積極的な参加をお待ちしています。

※2025年度に「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」に申請予定

対象科目

基礎的な内容で、Microsoft Excelなどを使用する実践的な
演習を通じて、社会や日常生活でデータを読み解いていきます。

ー教養科目、2単位、春学期月曜2限ー

2025年度
入学者

・ データサイエンス・AI入門Ⅰ

2024年度
以前入学者

・ 情報機器演習(応用)Ⅰ〈リテラシーレベル〉

AIの歴史や技術の基礎を学び、より実践的な演習を通じて
具体的な分野での応用方法について学んでいきます。

ー教養科目、2単位、秋学期火曜3限ー

2025年度
入学者

・ データサイエンス・AI入門Ⅱ

2024年度
以前入学者

・ 情報機器演習(応用)Ⅱ〈応用基礎レベル〉

※各科目内容の詳細はシラバスを参照してください



質問があったら
「教えてジーリオくん」
で聞いてみてネ！！
事務局にチャットで
接続もできるよ！

問い合わせ

昭和音楽大学事務局
学生支援センター 授業支援室

大学等名	昭和音楽大学	申請レベル	応用基礎レベル(大学等単位)
教育プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）	申請年度	令和 7 年度

目 的

本プログラムは、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」リテラシーレベルの教育を補完的・発展的に学び、現場にフィードバックする能力、AIを活用し課題解決につなげる基礎能力を修得することを目的とする。

対象科目

- データサイエンス・AI入門Ⅱ(全14回・2単位)
→ 大学、短大全コースに教養科目として開講

修了要件

- 対象科目の履修と単位修得
→ 卒業要件単位として算入可能

授業展開と内容

第1回	第2回	第3回	第4階	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回
DS基礎 データサイエンス基礎に関する講義				AI基礎 音楽生成AIを利用した作曲演習					DE基礎 AI技術に関する 講義 データ分析演習		DE基礎 音楽メタデータを利用した データアナリティクスの実践演習		
DE基礎 データ分析手法、AI技術に関する講義													

身に付けられる能力

- 関連する専門分野で数理・データサイエンス・AIを応用するためのスキルが身に付く
→ 実社会におけるデータを想定した演習を通じて、一連のデータ活用プロセスを体験します。
→ 基礎的な数理的素養、AIに関する歴史から現在の応用分野、要素技術の基礎について学び、音楽分野への適用を演習を通じて体験します。
- 自らの専門分野に数理・データサイエンス・AIを応用するための大局的な視点を獲得し、専門分野の技能やそれを実践する力、およびコミュニケーション能力を発揮するためのツールとして活用できるようになる

実施体制

